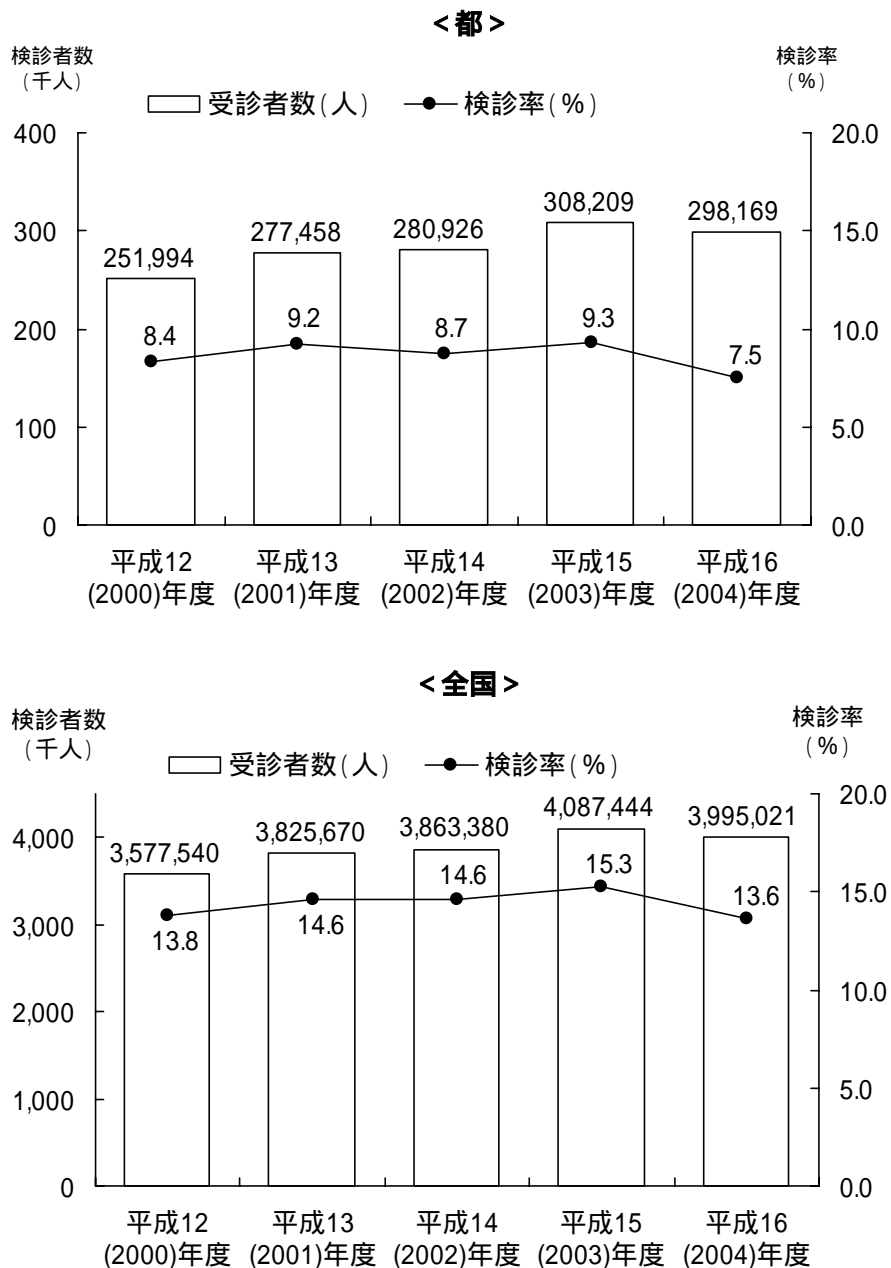


- 4 妊娠・出産・避妊

1 子宮がん・乳がん検診率

子宮がん・乳がんの検診率の推移をみると、都の受診率は全国に比べるといずれの年度でも低くなっている。平成16年度の受診者数・受診率は、前年度に比べ都・全国ともに低下している。

図表 - 4 - 1 子宮がん検診率の推移（都・全国）



注1：対象者は30歳以上の女性。

注2：検診項目

問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診とし、必要に応じてコルポスコピー検査。
医師が必要だと認めるものに対しては、子宮体部の細胞診（子宮内膜細胞診）

注3：受診者数

平成14（2002）年度以前・・・「頸部」（あわせて体部を受診した者を含む）

平成15（2003）年度・・・「頸部のみ」と「頸部及び体部」を合わせた者

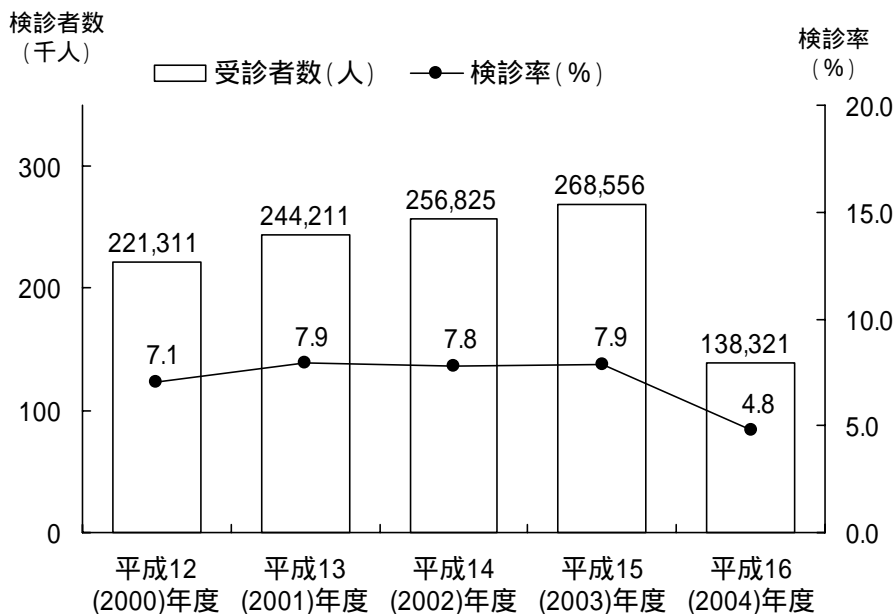
受診率 = 受診者数 / 対象者 × 100

注4：平成18年3月公表の平成16（2004）年度の数値が最新のデータである。

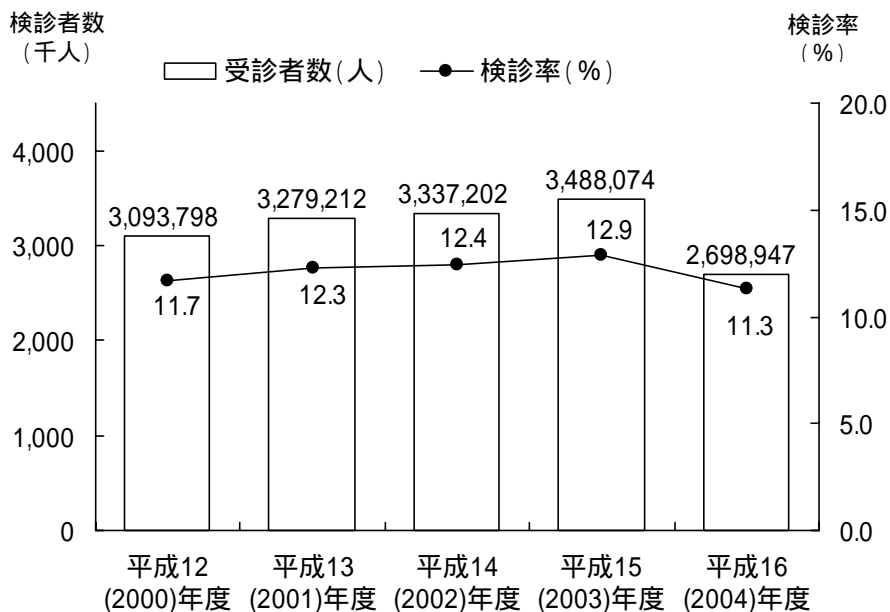
資料：厚生労働省「地域保健・老人保健事業報告」

図表 - 4 - 2 乳がん検診率の推移（都・全国）

< 都 >



< 全国 >



注1：対象者は30歳以上の女性。

注2：検診項目

問診、並びに視触診及び乳房エックス線検査。

注3：受診者数

平成14(2002)年度以前・・・「視触診方式のみ」と「マンモグラフィ併用方式」を合わせた者。

平成15(2003)年度・・・「視触診方式」と「視触診方式及びマンモグラフィ」を合わせた者。

受診率 = 受診者数 / 対象者 × 100

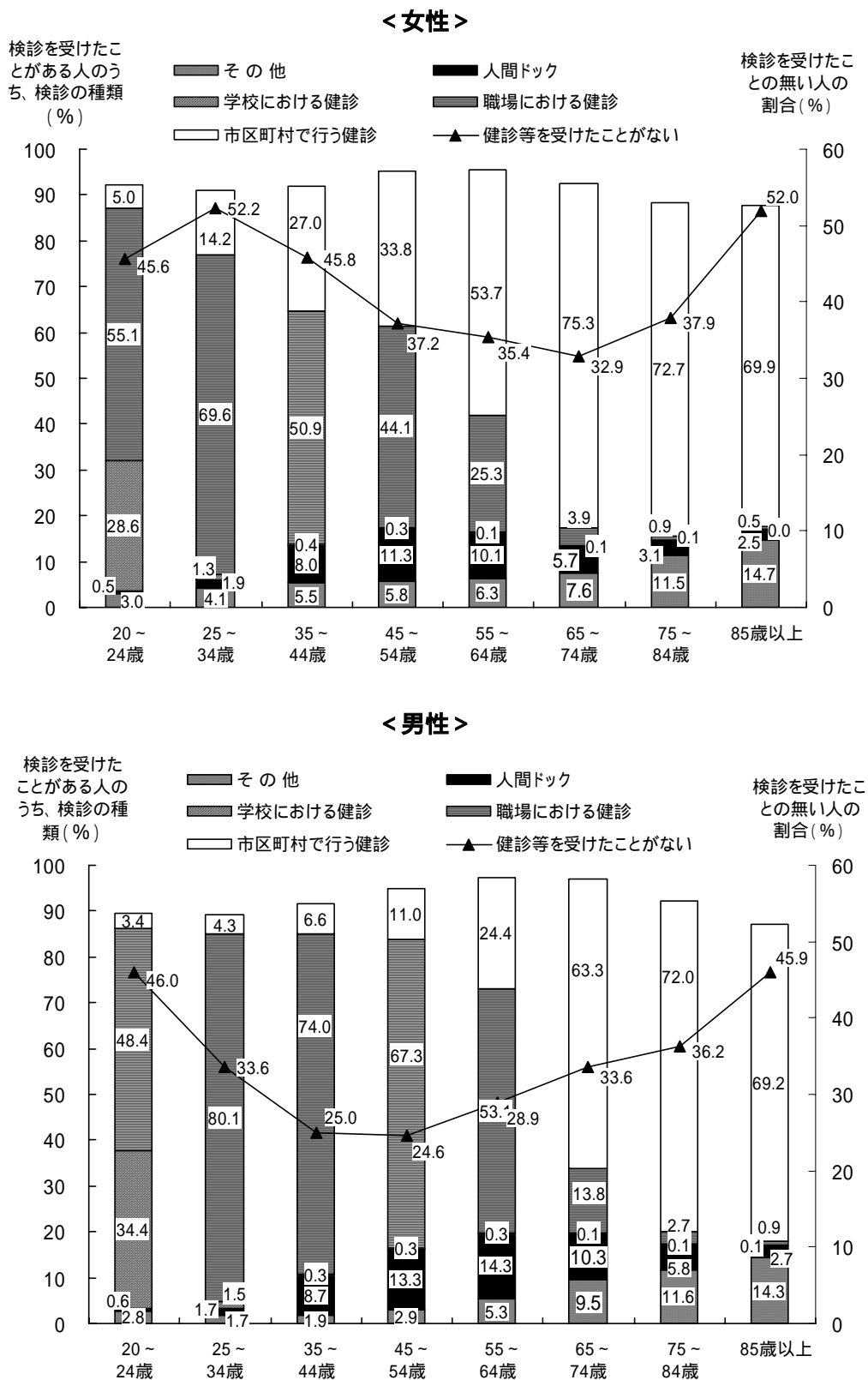
注4：平成18年3月公表の平成16(2004)年度の数値が最新のデータである。

資料：厚生労働省「地域保健・老人保健事業報告」

2 健康診断等受診率

年齢階級別に健康診断を受けたことのない人の割合をみると、女性では25～34歳、85歳以上が50%を超えており、男性は20～24歳、85歳以上が45%を超えている。

図表 - 4 - 3 年齢階級別にみた健康診断の受診率（全国）



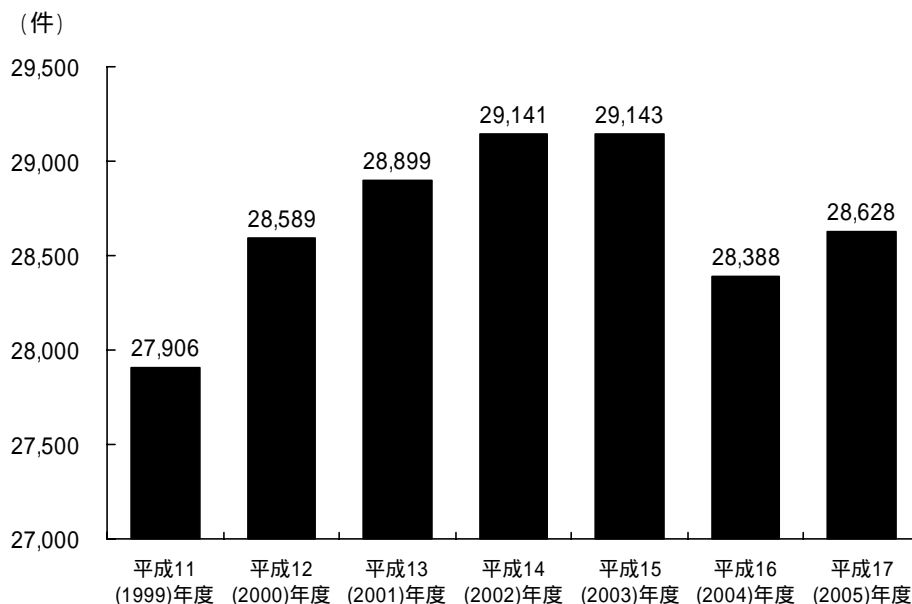
資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」平成16年

3 人工妊娠中絶件数

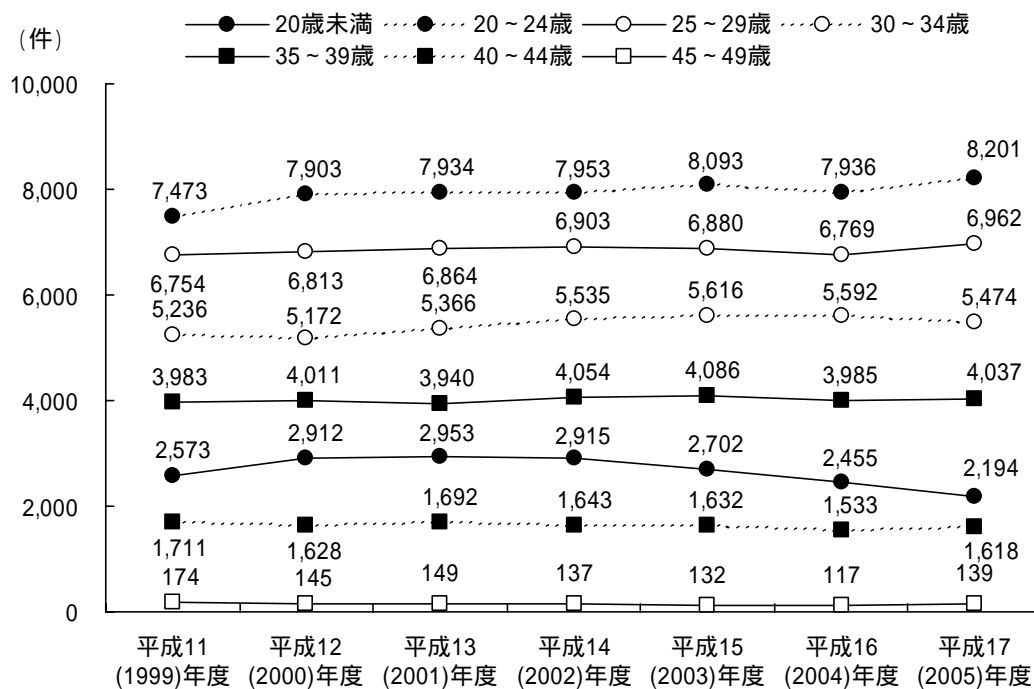
人工妊娠中絶件数は、都では平成17年度は28,628件となっており、前年度に比べ240件増加している。年代別では都、全国ともに20～24歳が最も多い。

図表 - 4 - 4 人工妊娠中絶件数の推移（都）

< 総計 >



< 年代別 >

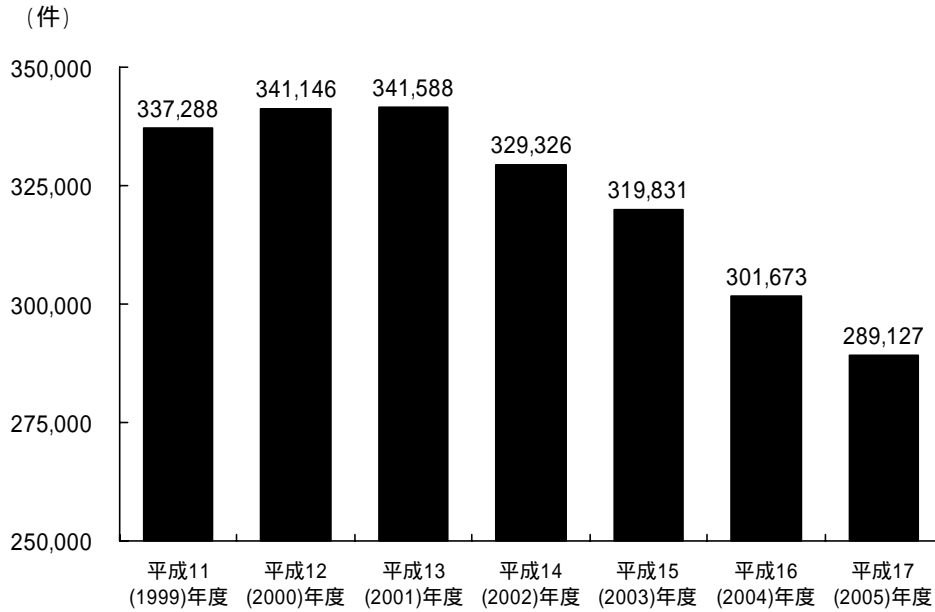


注：年齢不詳の者を除く。

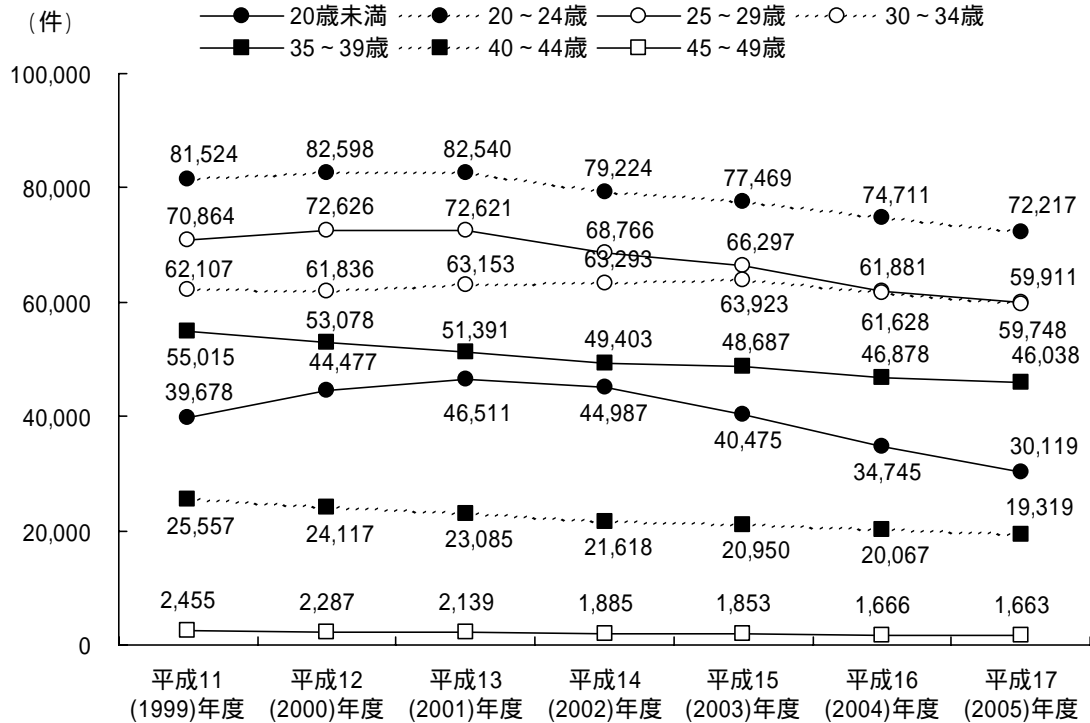
資料：厚生労働省「衛生行政報告例」

図表 - 4 - 5 人工妊娠中絶件数の推移（全国）

< 総計 >



< 年代別 >



注：年齢不詳の者を除く。

資料：厚生労働省「衛生行政報告例」